

オプション

【電子顕微鏡専用広角撮影用キット】



※クラックの接写撮影時には必須アイテムになります。

【現場用首掛け観測ボード】



※現場での点検作業にタブレット、野帳、チョークに電子顕微鏡ホルダーが付いています。

サポート体制

- 訪問指導を基本にインストラクターがご説明させていただきます。
- 電話・FAX・eメールでのお問い合わせ受付
- 各県の市場に精通した代理店様と連携したサポートで、ご要望をお伺いします。



システムの動作環境 (かんたんひび割れ調査システムオートくん)

<PC>	<タブレット>
OS : Windows 7 / 8.1 / 10	OS : Windows 8.1 / 10
メモリ : 4GB 以上	メモリ : 2GB 以上

NETIS (新技術情報提供システム) とは

民間企業等により開発された新技術に係る情報を共有及び提供するためのデータベースで、国土交通省によって運営され New Technology Information System の頭文字をとり、ネティスと呼ばれています。

大斗 株式会社

〒781-5108 高知県高知市潮見台 1 丁目 -2606

TEL 088-860-3033

FAX 088-860-3053

www.ootokun.com

ooto@mocha.ocn.ne.jp

まずはお気軽にお問い合わせください。お問合せ、ご注文は TEL・FAX・メールで受付けております。

【高知県防災関連製品認定】



未来の安全を記録する

※写真はイメージです



【電子顕微鏡とタブレットを利用した顧客のいのちを守るコンクリートの維持・管理】

かんたんひび割れ調査システム

オートくん

簡単
操作

なぞるだけ!

自動
記録

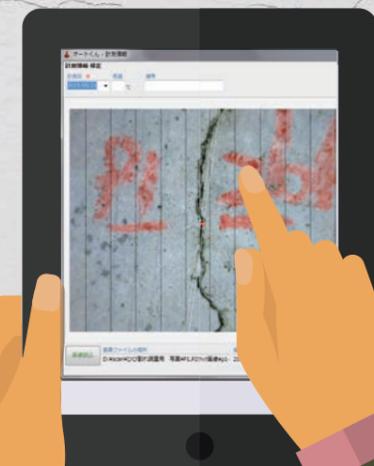
提出書類も楽!

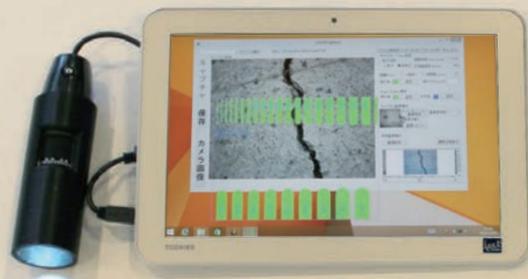
信頼
アップ

立会検査にも!

導入
多数

実績多数!





- 🔍 タブレットを使ってデジタル化！
- 🔍 付属の「電子顕微鏡」での簡単撮影！
- 🔍 暗闇でも撮影可能！（照明機能付き）
- 🔍 画面をなぞるだけの数値確認！

タブレットの活用でクラックスケール不要！

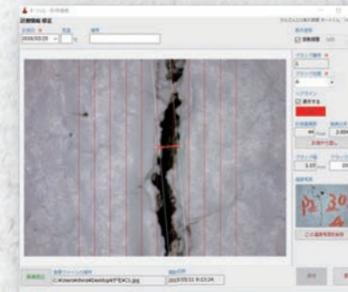


現場の作業はいたってシンプル。全景撮影も今まで通り。接写はクラック箇所
に電子顕微鏡を押し当てて撮影のみ。コンクリート鏡面に目をこらしてクラック
スケールを当てることは必要ありません。

タブレット画面のインターフェイスもいたってシンプル。
接写は電子顕微鏡で撮影しますので、クラック幅はデジタルカメラのピクセル数で
数値管理します。タブレットを活用した創意工夫としても発注者へご提案頂けます。
もう、クラックシートは必要ありません。

初心者でもすぐに使える操作性で調査の作業が短縮されます。
デジタル化してから報告書作成がワンクリックで行えるので、
作成時間の短縮につながります。

専門の技師でなくても行えるため、人件費の削減にも◎
正確にデータ測定できるため、訴訟時での証拠資料となります。



事務所に戻ればクラック幅をなぞるだけ！

事務所に戻ればオートくん写真を取り込んで・・・

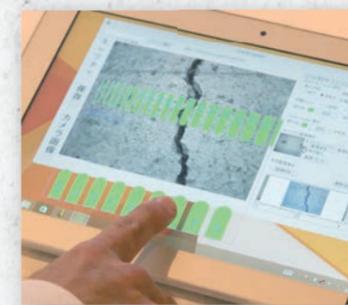
- ① クラック番号入力
- ② クラック幅をマウスでなぞる
- ③ 全景写真の関連付け

これだけでOK！クラック幅は画面上のマウスでなぞるだけで確認
できます。もちろん、写真をズーム表示しながら、測定誤差を
最小限に抑える配慮も対応しています。



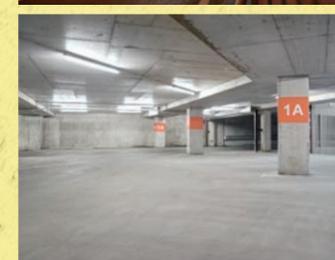
提出書類も充実！

ワンクリックで調査報告書と写真帳が出力可能です。
ひび割れ本数、総延長、最大ひび割れ幅、最大ひび割れ長さ・・・
1つの点検作業の総括表も自動的に出力されます。
※補修判断の基準以上のクラックは「自動的に色分け」され
「一目で分かる」ようになっています。



立会検査にもタブレットで対応！

クラックを接写後、タブレットの画面にはピクセル数から計算された
「電子クラックスケール」も表示可能。
タブレットの画面でも、発注者が立会検査等で、
確認ができるように対応しています。この精度も、もちろん 0.025mm。
発注者の期待を超える精度管理と顧客の信頼を勝ち取る取り組みを
アピールできます。



戦後復興 70 年・・・。 過去の公共事業のコンクリートが危ない！

笹子トンネル崩落事故、東日本大震災、社会インフラの老朽化問題、
コンクリートの風化速度が 20 年で 1cm とされているなか、
コンクリート学識者ですら、気象条件を考慮すると正確な耐用年数が
判断できない日本中のコンクリート構造物。

そして今、震度 5 以上の地震発生時にはコンクリート構造物の
クラック点検調査が実施要領により維持管理されています。

下部工、橋台、ボックスカルバート、建築躯体・・・
ひび割れ調査実施要領の適用範囲は多岐に渡ります。

現代の建設業に求められる「地域のインフラを守る」ために
コンクリートの状態を高精度に管理できるシステムを開発しました。
現場ではクラックスケールの目視による観測誤差と多大な労力を回避
し、電子顕微鏡で高精度のクラック幅をかたんに計測管理できます。